

おおたまコミュニティ広場 ～子どもたちが考える村の将来について地域も一緒に考える～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
大玉村立 大玉中学校	大玉中学校学校運営協議会 平成23年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 4名 4名 地域コーディネーター 0名 0名	大玉村地域学校協働本部
大玉村立 大山小学校	大山小学校学校運営協議会 平成23年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 4名 地域コーディネーター 0名 0名	大玉村地域学校協働本部
大玉村立 玉井小学校	玉井小学校学校運営協議会 平成23年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 4名 地域コーディネーター 0名 0名	大玉村地域学校協働本部
大玉村立 大山幼稚園	大山幼稚園学校運営協議会 平成23年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 4名 地域コーディネーター 0名 0名	大玉村地域学校協働本部
大玉村立 玉井幼稚園	玉井幼稚園学校運営協議会 平成23年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 4名 地域コーディネーター 0名 0名	大玉村地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

村という小さなスケールメリットを最大限に活かしながら、各校(園)だけで課題解決をするのではなく、仮想学園「おおたま学園」により、学校・地域・家庭が一同に話し合いができる場所を提供している。「コミュニティ広場」では、児童・生徒が1年間を通して学習してきた成果について、地域や保護者への発表の場を設け、そこで出た提案や課題について、子どもたちと一緒に考えていく場所である。

目標や目指す姿(学校)

授業の中で、地域(ふるさと)を知り、自分たちが地域で何ができるかを考えながら郷土愛を育むこと。

目標や目指す姿(地域)

子どもたちの声を聞き、よりよい地域づくりに反映させるための話し合いや行動をおこすこと。



大玉中学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- 幼稚園・小学校・中学校推薦(PTA・地域住民)
- 小・中学校長、幼稚園副園長
- 地域住民(公募)
- 地域連携担当教職員
- 商工会青年部代表
- など、計 25 名で構成
- スポーツ少年団代表
- 年間平均 9 回程度開催

効果的な運営の工夫

学校運営協議会は、各校で開催するのではなく、年9回行われているコミュニティ・スクール委員会(内3回は各小(幼)・中学校オープンスクール)の中で、同委員、同時刻、同会場で行っている。全体会での話し合い後、各園・校ごとの小グループに分かれて、課題等について話し合い(熟議)が行われ、最後に全体で共有するといった運営を行っています。熟議では、小グループごとであるため個々の発言の機会も多く、それぞれの立場から積極的に課題解決に向けた意見や提案がなされる。また、コミュニティ広場では、コロナ禍による開催方法もYouTubeを活用し配信するなど、子どもたちの発表の場の提供ができています。



特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

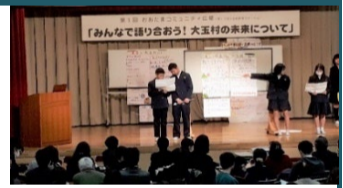
広場での子どもたちの発表を受け、委員として何ができるか、地域学校協働活動でどのような事業へつなげていくかの熟議により近年では、委員が発言するだけでなく、実際に行動に移す委員も多く、学校と地域とのつながりの成果となっている。



～学校運営協議会での熟議～

地域学校協働活動

現広場の前段の村教育フォーラムでは、大人のための教育に関する講演会等を実施していたが、子どもたちの学びを地域の人々が知ることにより、村のこれからの未来について一緒に考えていく方式へ変更して行っている。



～小学生による発表風景～

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

発足当初は、コミュニティ・スクールは話し合い(熟議)の場、地域学校協働活動は事業実施の場として、連携はしつつも、2つの柱で活動していた。しかし近年では、コミュニティ・スクール委員(地域)が自ら実現のために行動したり、協働活動事業を理解し参画したりと、一歩進んだ一体的事業の実施が図られている。

成果・効果

おおたまコミュニティ広場へ参加しての感想 アンケート集計総数 60名(内訳:教職員45名、CS委員10名、その他5名)

Q:小・中学生の発表はいかがでしたか? [とてもよい73%、よい27%]

- ・子どもたちの、村をより良くしようとする思いが伝わりました。(教職員)
- ・これは私が実現しなくてはと思いましたので、すぐに行動に移していきます。(CS委員)

Q:発表の村の未来のために自分でも何か始めてみたいと思いましたか? [とてもそう思う、そう思う95%、あまり思わない5%]

- ・学校で行っている総合的な学習の時間の成果として生徒が生み出したものを伝え広めるために、地域の方々のご協力が得られるとよいと思います。それが目に見える形となれば、更に生徒が達成感を味わい、次の課題解決への意欲となるでしょう。今回のような動画配信は、生徒の感覚にあっているのではないかと思います。(教職員)
- ・住んでいると当たり前になってしまい、村の魅力に目を向けていないと感じました。まだまだ知らないことが沢山あると思いますので、子どもたちと一緒に学ぶ機会があれば、協力や参加したいです。(CS委員)

令和4年度ふくしま学力調査と全国学力学習状況調査より(全国・福島県・大玉村のデータ一部抜粋)

設問1については、「自分の、よいところがあると思うか」との問いに県平均を全学年で上回っています。設問2については、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」との問いに全国・県平均より、20%以上も高い数値がみられます。自分のよいところを知りつつ、地域・社会に貢献したいと思う子どもたちが数多く育っています。

